

日刊 動労千葉

87. 1. 23

No. 2459

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄当局と動労革マルが結託した攻撃

千鉄当局は、一月十九日からの「五七予科」および「EC転換」のハンドル訓練について、極めて不当な「人選」を行い、一方的に強行してきた。これは国鉄当局と動労「本部」革マルが結託した新たな動労千葉・国労破壊攻撃であり、われわれは断じて許せるものではない。他人の犠牲のうえに自分だけ助かるうとして、裏切り者や、国鉄当局、その手先⇨動労革マルを徹底的に弾劾せよ。

組合所属によつて差別・選別

当局は、一月十九日より、津田沼・千葉・銚子各運転区において、ハンドル訓練を実施するとし、その「人選」などを一方的に決定し、強行してきた。

本来、ハンドル訓練の実施については、先ず、昨年十一月に学園教育を修了している五七予科の全員が実施すべきところであるにもかかわらず、今回は「三名」だけを選んだのである。そして「三名」のいずれもが、この間の当局による動労千葉破壊攻撃⇨脱落工作のもとで「組合を抜ければ新会社へ行ける」と甘言にのせられ動労千葉を脱退した裏切り者と、動労「本部」派組合員であることからして、明らかに組合所属によつて差別・選別した不当労働行為である。

一方的に強行した責任は重大

動労千葉は、動力車乗務員養成体系の協定を無視し、養成・登用を遅らせてきた当局に対し、ハンドル訓練が中断されている五七本科の全員のハンドル訓練、およびEC転換での学園教育修了者の全員のハンドル訓練をすみやかに実施すること、を申し入れてきたところである。

そもそも五七予科については、六一年度中に全養成を修了することとして、昨年六月学園入学、

十一月に教育修了後、当局は一方的にハンドル訓練を中止してきた経過のもとで「一部の者」だけを選別した



動労革マル・長谷川や、裏切り者ども断固たる糾弾の嵐

十一月に教育修了後、当局は一方的にハンドル訓練を中止してきた経過のもとで「一部の者」だけを選別した。ハンドル訓練強行は許しがたい暴挙である。しかも、そればかりではない。EC転換養成についても、今回の学園教育修了者を優先させ、先に学園を修了した者を後回しにして、しかも動労「本部」派の「一部の者」だけを選別し、訓練を実施するやり方もまさに、不当極まりないものである。

何ひとつ正当性がないゆえに

一月十九日、津田沼・千葉・銚子運転区に配属された動労革マル・長谷川、永島や裏切り者たちは、現場当局のカゲに隠れてコソコソ詰所に入ろうとしたが、動労千葉組合員の追及行動に何ひとつ正当性がないゆえに、顔を上げることもできず、裏切り者の醜い姿をさらしていたのである。



現場当局の裏切り者が、袋の羊の「米屋」の手土産へ、朝から晩まで、断固たる糾弾の嵐

必死の国労・動労千葉解体攻撃にもかかわらず、そのもくろみは完全に粉碎された杉浦・松崎は大打撃をうけ、凶暴化した組織破壊攻撃となつて今後あらゆる手立てをつかつかけていかれることは必至だ。動労千葉は、当局・動労革マルの組織破壊に対しあらゆる手段をもつて闘いぬく決意である。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！